

ガイダンスなど一連の行事が終了 人文学部は前期入

人文学部は、6日（火）の在校生ガイダンスを皮切りに、7日午前の入学式、午後の保護者説明会、8、9日の新入生ガイダンスなど、新入生の受入れや前期の開始にともなう一連の行事を終え、10日から新学期がスタートした。

新入生ガイダンスや保護者説明会などで挨拶に立った佐川泰



弘学部長は、茨大生は、優秀だが大人しいとみられていると前置きした上で、「積極的に行動することは恥ずかしいことではない。今一步、どんどん前に出ていくことを期待したい」と語り掛け、新入生に目的

意識を持った、積極的な行動を要請した。

また、地域連携と海外留学などの国際化に学部が力点を置いていることを挙げて、活動への参加と、卒業するまでの4年間に教員とのコミュニケーションを存分に楽しんで欲しいと呼びかけた。

恒例の新入生ガイダンスでは、教務委員会から、外国語、未修外国語、教養科目、講義の履修などでの注意点が、学生委員会からは、学費免除や奨学金の申請の日程などのほか、恒例の生活上の注意が、国際交流委員会からは、外国人教員による英語での留学制度などの説明があった。



このほか、担任教員の紹介を兼ねた主題別ゼミナールや学生アドバイザーの紹介のほか、根力育成プログラム、国際教養プログラム、地域プログラム、教員免許と学芸員資格などの紹介が担当教員からあった。 （終）

